



何をした？

法務省と連携し、非行少年を含むDisconnected Youth（※）に対する取組み等を考えるシリーズイベントとして「**Sync to HOPE**」を立ち上げ、マルチセクターから多様なパートナーが参加するイベントを企画・実施。

最初のきっかけは？

アメリカのDisconnected Youth に対する代表理事の事業経験から、社会課題を事業として継続的に解決していくことの重要性を痛感。持続可能な仕組みを考え、一般社団法人を設立。

取組開始の理由は？

これまでの取組みの中で、非行少年や社会的養護下の子ども、居場所のない若者など共通する背景課題を横断的に捉えることで、新たな共創やより持続可能な事業を創り出せるのではないかと考えたことが契機。

どんな風に？

共創を通じて生まれる事業の種を、組織の壁を越えて多様な団体とともに事業として育てていく。その際の費用は独自の基金も活用しながら、持続的な社会価値創出へとつなげていけることが法人の強み。

※ Disconnected Youth：様々な事情で社会とのつながりが遮断されてしまった若者のこと

Arc & Beyondから企業の皆さまへ

「社会的孤立」という複雑な課題には、組織の垣根を越えて連携しながら挑む必要があります。まずは現場の「リアル」に触れ、それぞれの立場からできることを一緒に考えてみませんか。未来を共創するパートナーとして、皆さまの参画をお待ちしております。



「Sync to HOPE」の企画・実施

Sync to Hope

- 「Sync to HOPE」とは
みんながバラバラに頑張るのではなく、同じ目標に向かって、それぞれの得意なことを活かしながら、連携して活動することで、より大きな社会的変化を起こすことを目指した活動。
2025年7月から開始し、2025年12月現在で、2回開催。

- 第1回 社会的孤立を抱える子どもたちに今必要な“創造性を引き出す学び”とは？

第一線で活動する社会福祉法人や民間企業等の実践者が登壇したパネルディスカッションを開催。企業、行政、教育・福祉分野、学生などが参加。



- 第2回 「恋する豚研究所」スタディツアー
「すべての人の可能性を広げる」ことをミッションに掲げる団体の実践を視察し、気付きをシェアするツアーを開催。刑務所出所者や障がいのある人、高齢者などみんなが個人として尊重され、楽しみながら共生できる場づくりについて学んだ。

